

< 目 次 >

- | | |
|------------------------------|--------------|
| 1 タイ国防災研修 | NPO 法人 藤井 芳弘 |
| 2 防災人材交流セミナー | 広報部長 藤井 芳弘 |
| 3 小学校の公開学習の講師をしてみ | 稲沢支部 小野 博史 |
| 4 NPO法人あいち防災リーダー育成支援ネットの活動紹介 | 副理事長 伊藤善之 |
| 5 防災リーダーの養成目指して | 江南支部 尾関 博 |
| 6 防災よもやま話 No. 35 | 名古屋大学 福和 伸夫 |
| 7 お知らせ・掲示板 | |

1 タイ国防災研修

NPO法人あいち防災リーダー育成支援ネット 藤井 芳宏

JICAよりタイの国及び県の職員への防災研修の依頼があり一昨年から開催しており、23 年度も10月4日そして12月1日と2回開催しました。

会場はJICA中部・なごや地球ひろば、12月1日の研修風景を紹介します。

この日の参加者はタイ国の教育委員会幹部・学校の先生18名でした。早川会長の講演で始まり、通訳を介しながらの講演ですので時間がかかります。

休憩中ナマズンの塗り絵に挑戦

大声競争

ホイッスルの説明



ロープワーク



釜石で助かった子どもたちのレクチャー



卓上ぶるる



今回のタイでは洪水被害が起きており救命具には特別関心を持っていました。

ゴミ袋の活用方法

ペットボトルの活用

ペットボトルの救命具



タイの人達は陽気でチョッとシャイ又フレンドリーです。

新聞紙のスリッパ作り

非常用のポシェットのの中身の説明

三人娘の人形劇 拍手喝采！！



修了後、懇親会が行われました。盛り上がってタイの踊りが始まりました。楽しそうですね！



両国が参加、ひとつ覚えの「サワデイカ」と挨拶して賑やかに談笑？言葉の壁があるのでボディランゲージで楽しい時間を過ごし、結びにタイ国代表から早川会長に記念品贈呈、挨拶がありました。

「日本の防災は人命を第一に考えていて素晴らしい、タイに帰って日本で学んだ事をタイ流にアレンジして実践していきます。今回あれだけの災害に見舞われながら復興を目指して黙々と頑張っている日本人その姿に敬服致します。本当に有難うございました。」

私の個人的な感想ですがめったに体験できないような外国の人達と交流できた事に感謝しています。国際貢献できたかな！自己満足です。

2 防災人材交流セミナー

広報部長 藤井 芳宏

23年12月10日(土) 10:00~17:00 会場:名古屋大学豊田講堂

目的は来るべき災害に備え日頃、防災・減災に、それぞれに活動をされている皆様を一同に介して改めて「防災・減災」の大切さを共に学び、災害に強い人づくり・まちづくりを強力に推進していくための交流の場とする。

対象: あいち防災リーダー

愛知県防災ボランティアコーディネーター
名古屋市災害ボランティアコーディネーター
愛知県防災まちづくりアドバイザー
耐震化アドバイザー
その他、市町村などで防災に関する講座等を
受講された方



主催: 防災人材交流セミナー実行委員会

名古屋大学・愛知県・名古屋市・あいち防災リーダー会・特定非営利活動法人あいち防災リーダー育成支援ネット・防災ボラネットなごや・特定非営利活動法人耐震化アドバイザー協議会・特定非営利活動法レスキユーストックヤード

開会の挨拶を川端寛文様、そして主催者を代表して名古屋大学総長濱口道成氏から「3.11の東日本大震災を体験し地域の防災力を高めることが必要である。各方面の防災団体の交流を図って頂き力を合わせて防災活動を行ってください」と挨拶がありました。

続いて来賓の挨拶で愛知県中野防災局長から「3連動地震に対する防災活動に邁進していただき、今日のこの交流セミナーを通してネットワークの輪が広がり、共助・公助で防災にご尽力ください」

講義①「災害現場から学ぶ～被災者の生の声より」

講師: レスキューストックヤード代表理事 栗田暢之氏

・人的被害

死者 16,079 人・行方不明者 3,499 人・負傷者 6,051 人

※死者の 92.5%が溺死・65%以上の高齢者

※震災関連の自殺者 6～8 月多発、上記死者に含まれない

・物的被害

全壊 120,209 棟・半壊 189,523 棟・一部損壊 616,217 棟・

床上浸水 10,971 棟・床下浸水 13,677 棟

・避難者数 67,387 人 (内訳)

岩手県 1,427 人 (うち県外避難者 1,427 人)

宮城県 8,576 人 (うち県外避難者 8,529 人)

福島県 57,384 人 (うち県外避難者 57,167 人)

※愛知県にも約 500 世帯・1300 人が避難 避難者数は原発事故もあって福島県が最も多い

避難生活は長期に渡りとても劣悪な環境である。



講師 栗田暢之氏

足湯のつぶやき～津波の恐怖

- ・ 私はね、泳いで逃げたのよ、もうどうやって来たかもぜんぜんわからないけどね。火事場のバカ力がでたのね。屋根にいた人に引き上げてもらってね。雪がふってて、気を失ってね、気が付いたら病院で皆に体をさすってもらって、担架で助けられたのね。凍えててね。助かったのが、本当に生きているのが不思議でね、ほんとうに。(3/31 石巻市 女性 70代)
- ・ 地震の時、車ごと流されて、三時間半泳いでやっと丘の上についた。泳いでいる途中、100人以上の遺体。足つかまされたり、色々したけど自分の事だけで精一杯だった。そこから7時間歩いて避難所に着いて、すぐ病院に連れていかれて4日間入院した、1週間何食べても戻した。一回死んでいるんだ。弟は車の中で死んでいた、見つかって火葬できた、しょうがない。ビールが飲みたい、お酒無い、おにぎりやパンは賞味期限ぎりぎりです。パサパサのばかり。(4/19 石巻 男性 50代)

足湯のつぶやき～涙

- ・ 私家がなくなっちゃたんですよ。その日は卒業式で、卒業式終わって普通に帰れると思ったんですけど、帰って見たら家、何にもなくて！ 普通2階だけ残ってる家とかあるんですけど、私の家は本当に何にもなくて。私の家の写真とかはあったんですけど (4/5 七ヶ浜町 女性 10代)
- ・ 好きな子はもういないよ、だって流されちゃったんだもん、だからまだ好きな子はできない。
(8月17日 山元・仮設 小学生男子)
- ・ 去年、犬が散歩中車に引かれて犠牲になって俺は助かったが、今度は息子が犠牲になって流され、孫残して死んじゃった。胸のここがポッカリ空いたよう、寂しいね。この間、ボランティアで来た人が息子にソックリで、後姿がソックリで、息子が帰って来たようでビックリした。(8月26日 気仙沼・仮設 男性 70代)
- ・ もう冬だね、東北の冬はきびしいからね、仮設で冬を越すのは不安、2年かあ・・・・・・歩くとね、ぴしぴしいうのよ、笑っていないとダメだよじめじめしてもね、しょうがないよ、乗ってくれるとね、楽しくてどんどん話は弾むのよ、楽しいよね。だから笑ってね
(9月5日 陸前高田・仮設 女性 70代)

基本は変わらない

- ・ 復興とはすべての人が明日への希望を持つこと、外部支援はあくまでその応援団
- ・ 人、モノ、お金、すべてにおいて継続的な支援が必要です、ご協力をおねがいします。

まとめ

- ・ 災害サイクルのどの部分も重要
- ・ 減災に向けた住民参加が必要（住民も様々）
- ・ 防災に特効薬はない。「地道に」「丁寧に」
- ・ 災害対応は行政だけでは限界
- ・ 「おせっかいの」のススメ（度が過ぎないように）
- ・ いまこそ地域の資源の終結を！

講義② 「来るべき巨大地震に備えて」

講師：名古屋大学大学院 教授 福和伸夫氏

「こうして防災に関わるボランティアの皆さんが集まっただけのこととはとても嬉しい事である、名古屋大学の協力で会場を提供していただ



ました。」と講義の冒頭に挨拶がありました。

120年前に濃尾地震その5年後三陸の津波が起こった。この悲惨な状況を伝えていない、災害危険度が高い地域に町を造ってしまったが、これらの悲惨な状況を伝えていこう、学びながら交流し、キッカケになれば良い

津波だけに引きずられているが、それ以外の事を今一度見直してみよう！

津波の前に揺れる、物が壊れないように、壊れない場所に壊れない建物を作る。

家の中には様々な危険物があるのでそれにも対応できるようにする。

次に液状化

名古屋の西半分から海部地方揺れている時だけではなく、揺れがおさまってからも起こっている

大規模災害で火災が起こっても消防力が不足して消火がなかなかできない

次に津波がやって来る、津波の映像を啓発活動に使う

今回の東日本大震災、地震そのものの被害は少なかった、家具の転倒も少なかった、建物の被害も少なかった。すべて津波の被害 岩手県・宮城県の犠牲者を見ると宮城県は岩手県の3倍であった岩手県は過去の歴史を踏まえていた。

来るべき巨大地震は神戸の地震+東日本大震災並が予想される。地震と津波の対策を考えなければならない、東日本と違ってこの地域の被害は大きい、そして東日本では過去の歴史が生きていた。

869年の貞観地震 7月13日三陸沿岸城郭・倉庫・門櫓・垣壁など崩れ落ち倒潰する物無数、津波が多賀城下を襲い、溺死者約一千名、流光屋のごとく隠映す。

貞観時代～仁和の時代と今と似ている。

私たちは千年に一度の時代に生きている

歴史を紐解くといろんな教訓がある波分神社・波切不動

100年の間に三回も津波があった、1896年明治三陸・1933年昭和三陸・1960年チリ津波など結びに「産官学民の協同による防災人材育成しなければならない」

防災・減災に向けたこれまでの各グループ活動報告

発表者：あいち防災リーダー会・名古屋市災害ボランティアコーディネーター・防災まちづくりアドバイザー・耐震化アドバイザー・高校生防災リーダー



あいち防災リーダー会は、東尾張ブロックの加藤千恵子さんが発表され、地域の防災力のUP支援など説明されました。

高校生防災リーダー・菊里高校の発表では“若人は働け”継続した活動・工夫をした活動を校内でしていると発表されました。

今後の活動方法についてワークショップ

最後の部では各地区に分かれ今後の活動をどのように行っていくかと各グループ間の連携をどうしていくかなどワークショップを行い、各地区の代表による発表があり、この様なセミナーを今後も開催していきますと訴えた地域が多く、結びに主催者側から挨拶があり閉会となりました。



3 小学校での公開学習の講師をしてみ

稲沢支部 小野 博史

平成24年1月17日（火）稲沢市立法小学校で、あいち防災リーダー会の要請を受けて公開学習として保護者を交えた5年生のクラスで阪神淡路大震災の17年目の日ということで、防災についての授業を平和地区在住（堺律治・加賀英治・永野順子・小野博史）の4名の防災リーダーが、37名の子供と8名位の保護者及び担任の先生に2時間行いました。最初の1時間目はマジックと紙芝居で、子供たちに地震と防災について面白おかしく説明をし、20分放課の後の2時間目は防災クイズで、防災の啓蒙授業を行いました。

昨年の3・11東日本大震災と、阪神淡路大震災17年目の日という事で、子供達も地震に対する関心が非常に高く、2時間目の防災クイズでは初級コース1（地震に襲われたら）・初級コース2（地震への普段の備え）・初級コース3（地震のメカニズム）の各10問、合計30問行う予定でしたが、質疑応答が多く初級コース1の10問だけで時間になり初級コースの2と3は問題と解答を配布して、子供たちに家庭で防災クイズをするように宿題を出して、好評のうちに防災授業を終了しました。



4 NPO 法人あいち防災リーダー育成支援ネットの活動紹介 副理事長 伊藤善之

NPO 法人が22年4月に発足してから約2年が経過したので、これまでの活動状況についてご紹介します。

1) 22年度

- ・当初は太田理事長以下、正会員24名、賛助会員1団体でスタートしました。
- ・発足後、最初の活動は5月28日ホテルアソシア名古屋ホテルで 発足記念パーティを県防災局中野局長、熊田危機管理課長、秀島名古屋工業大教授各位をお迎えして開催しました。
- ・月例会を6月よりスタートし、毎月1回 NPO 事務所に会員が集まり、行事計画、推進方法、参加者の確認、準備事項の内容などについて協議しております。
- ・22年度で特記すべき主な事業は、

- ①あいち防災リーダー養成塾・・・9月～11月の6日間、名古屋・岡崎の会場で催され86名修了し、そのうち50名があいち防災リーダー会に入会されました。
- ②岡崎高校生災害ボランティアコーディネーター養成講座・・・8月の2日間、岡崎の会場で開催され34名が修了されました。将来の防災仲間になってくれると思います。
- ・12月に一泊忘年会をかんぼの宿美浜にて行い11名が参加して、これまでの活動の報告や反省、今後の取り組みなどについて意見交換をし、和気藹々のムードで終わりました。
- ・1月に県河川課指導により、「みずから守る手づくりハザードマップ」の講習を10名が受講し、当NPO法人が「みずから守るプログラム支援団体」として認可、登録されました。
- ・3月11日に東日本大震災が発生し、これまでの防災活動を根本から見直す必要が生じました。それで23年度の事業の中に、APLA 会員ならびに退会した人やあいち防災カレッジ修了者で入会されなかった人たちを含めた「防災リーダーフォローアップ講座」や、「ハザードマップ」作り支援事業を加えることにしました。

2) 23年度

- ・5月20日に名古屋NPOセンターにおいて、定期総会を県防災局夏目危機管理課長、県河川課田宮課長補佐、名古屋大学飛田教授、名古屋工業大学前田准教授ならびに北野准教授などの各位をお迎えして開催され、23年度事業報告や24年度事業計画が承認されました。
- ・23年度で特記すべき主な事業は、
 - ①防災リーダーフォローアップ講座・・・6月12日岡崎の会場で159名が参加し片田群馬大学教授、前田名古屋工業大学准教授を講師としてお招きして開催され、さらに「今後の大地震にどう立ち向かうか」のテーマでワークショップを行いました。
 - ②あいち防災リーダー養成塾・・・9月～11月の4日間、名古屋・岡崎の会場で開催され100名修了し、そのうち64名があいち防災リーダー会に入会されました。
 - ③岡崎・豊橋高校生災害ボランティアコーディネーター養成講座・・・8月にそれぞれ2日間、岡崎・豊橋の会場で開催されそれぞれ35名と43名が修了されました。
 - ④「みずから守る手づくりハザードマップ」について、岡崎では2地区1事業を、名古屋では5地区3事業をハザードマップづくりの対象として、まち歩きやハザードマップづくりを町内会の協力のもとに実施しました。
 - ⑤東日本大震災の被災地にボランティアを兼ねながら2回視察し、さらにこの3月に1年後の状況確認に3度目の視察を予定しています。現地の状況を把握して今後の講座などに生かしていきたいと考えています。
- ・現在正会員は26名、賛助会員1名で活動しています。多くの講座や啓発活動などをこの人数で対応するにはとても不足しています。もっと将来の人材を育成してみたいと思われるお方やハザードマップづくりなど新しい手法など学びたい方にNPO法人の入会をお勧めします。
(年会費：正会員12,000円、賛助会員6,000円)
申し込み先：伊藤（090-4794-8863）
- ・太田理事長のお骨折りでNPO法人のホームページがこのほど公開されました。
是非お立ち寄りください。

アドレス：<http://www.npo-apla.org/>

5 防災リーダーの養成目指して

江南支部

尾関 博

地域の防災意識を高めていく防災リーダーの養成講座が開催された時の記事です。

2月26日には防災マップで被害状況を把握する「図上訓練(DIG)」が実施されました。

震度6弱の地震が起き火災が発生したという想定の下何をしなければいけないか、どう行動するのか話し合いをしているところの(下写真)です

防災リーダーの尾関 博さんは「防災に興味を持ち、一緒に活動してくれる仲間が増えてほしい」と話されました。

3月10日掲載

尾北ホーム新聞

**震度6弱を想定し
5市町が図上訓練**

防災リーダーの養成目指す

地域の防災意識を高めていく防災リーダーの養成を目的とする「5市町合同防災カレッジ」が2月18、25、26日に扶桑町、商工会館で開かれ、犬山、5市町が持ち回りで開催しているもので、今回グループに分かれ、震度6弱の地震が起き火災が発生したという想定の下、刻々と変わる状況に対応しながら地図上にマジックで火災現場や被害状況を記入するなど、何をしなければいけないか、どう行動するべきかを話し合いました。写真。

最後に「1番は自分の家族の安全確認。次に火事を発見したら119番通報し近所に声掛けしながら消火活動」。実際に起こった時、火災現場が遠かったら駆け付けられるかどうか」など、意見が出ていました。

防災カレッジを終えた防災士であり防災リーダー西尾張ブロックの尾関博さんは「防災に興味を持ち、一緒に活動してくれる仲間が増えてほしい」と話しています。



6 防災よもやま話 No.35 名古屋大学減災連携研究センター・名古屋大学 福和 伸夫

APLAの皆さん、こんにちは。昨年は、新燃岳の噴火に始まり、ニュージーランド地震、東北地方太平洋沖地震、台風12号・15号と、大きな災害に見舞われ続けた一年でした。年末には、南海トラフ巨大地震についての想定震源域も報道され、災害に始まり災害に終わる大変な年でした。皆様も、色々な立場で被災地の支援や今後の災害に対する備えに忙しく過ごされたことと思います。

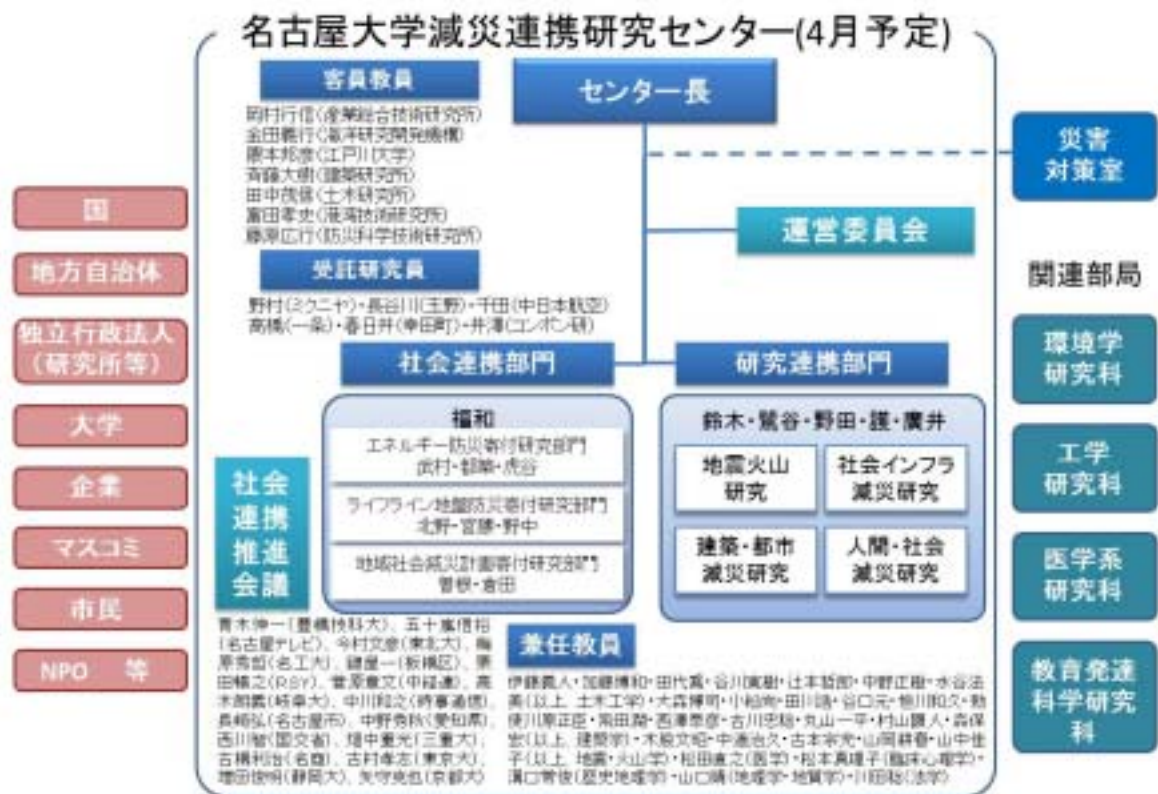
そんな中、私ども名古屋大学も、一昨年12月に、学内措置として減災連携研究センターを設置し、1年1ヶ月にわたって、30人ほどの教員が、減災連携研究センターを兼務する形で、産官学民の様々な方々と、減災研究を連携して進める準備をしてきました。そして、本年1月よりは、私も含め、6名の教員が専任教員として異動して、正式に活動を始めました。また、4月には3つの寄付講座が設置され本格的な活動が始まる予定です。来年度中には、免震の建物も新たに建築する予定です。



そこで、今回は、減災連携研究センターの様子について簡単に報告をしたいと思います。
センターには、研究連携部門と社会連携部門の2つの部門が設置されています。

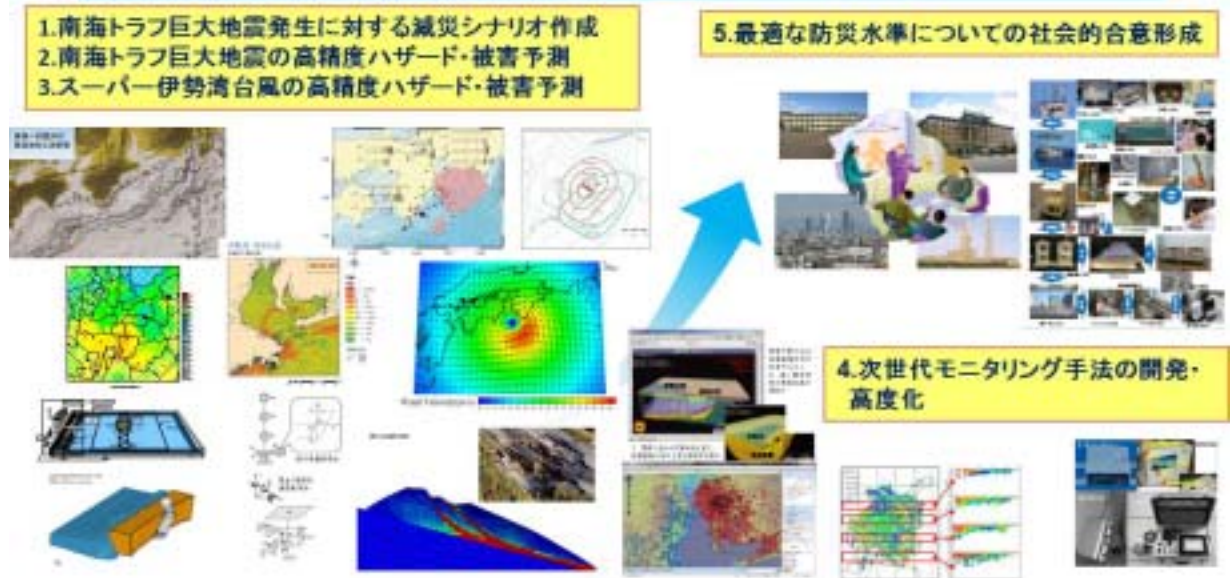
研究連携部門は、研究分野を超えて分野間の連携を進めることで、従来の学問分野に捕らわれることなく、減災に必要となる研究を推進することを意図しています。この部門には5人の専任教員が所属します。鈴木康弘さんは自然地理学（活断層）、鷲谷威さんは地震学（地殻変動）、野田利弘さんは土木工学（地盤）、護雅史さんは建築学（耐震）、また、4月から着任予定の廣井悠さんは都市防災が専門です。これに加え、環境学研究科・工学研究科・医学系研究科・教育発達科学研究科から33人の兼任教員を迎え、名古屋大学の総力を挙げて、減災研究に取り組んでいきます。

（研究連携部門・社会連携部門・客員教員は4月1日の予定、他は3月1日現在）



現在は、文・理・工・医の研究者が連携して、次図のように「東海地域を襲う巨大大自然災害の予測と総合減災対策による安全安心な地域の実現」を目指して、新たな研究プロジェクトを始める準備を進めている最中です。

東海地域を襲う巨大自然災害予測と総合減災対策 による安全安心な地域の実現



一方、社会連携部門は、広く社会の人たちと連携・協力して減災社会を実現するための研究を推進していきます。小生は、こちらの部門に属することになります。4月には、産業界の協力を得て3つの寄付研究部門を設置する予定です。エネルギー防災寄付研究部門（中部電力）、ライフライン地盤防災寄付研究部門（東邦瓦斯）、地域社会減災計画寄付研究部門（応用地質）の3つです。

エネルギー防災寄付研究部門では、電力を中心にエネルギー供給の安全確保のための研究を推進す火力発電施設の建築耐震設計がご専門の都築充雄さん、水力発電施設などの電力土木がご専門の虎谷健司さんをお迎えします。

ライフライン地盤防災寄付研究部門では、ガス導管などの地中埋設ライフラインの安全確保の研究を推進する予定で、シールド埋設管の耐震がご専門の北野哲司さん、強震動予測がご専門の宮腰淳一さん、地盤工学がご専門の野中俊宏さんをお迎えします。

地域社会減災計画寄付研究部門では、広く社会的視点で持続性ある地域社会を構築するための研究を推進する予定で、地盤・地質工学がご専門の曾根好徳さん、地理情報システムや防災教育がご専門の倉田和己さんをお迎えします。

4月には、廣井悠さんも含め新たに9名の教員が減災連携研究センターに加わり、従前以上に減災研究に取り組むことができるようになります。

さらに、社会との連携を推進するために、社会連携推進会議も設置しました。大学からは、古村孝志さん（東京大）、矢守克也さん（京都大）、今村文彦さん（東北大）、梅原秀哲さん（名工大）、青木伸一さん（豊橋技科大）、高木朗義さん（岐阜大）、畑中重光さん（三重）、増田俊明さん（静岡大）をお迎えし、地域を越えた大学間の連携や、東海地域内の大学間連携を進める予定です。また、行政からは、県・市の防災トップの中野秀秋さん（愛知県）と長崎弘さん（名古屋市）を、産業界からは、菅原章文さん（中部経済連合会）



と古橋利治さん（名古屋商工会議所）を、市民団体からは栗田暢之さん（レスキューストックヤード）を、メディアからは五十嵐信裕さん（名古屋テレビ）を、お迎えして、地域内の産官学民の連携を進めたいと思っています。さらに、災害被害を軽減する国民運動を推進してきた鍵屋一さん（板橋区）、中川和之さん（時事通信）、西川智さん（国交省）にも加わっていただき、広く市民運動を広げていきたいと思っています。

なお、減災連携研究センターの本格稼働に伴い、災害対策室は、学内の防災対策に特化することになりました。このため、4月以降は、名古屋大学防災アカデミーなどの運営は、減災連携研究センターに徐々に移行することになります。ただし、災害対策室長の飛田潤さんは、減災連携研究センターを兼務いたしますので、従前通り、防災アカデミーや減災カフェも継続していく予定です。また、川端寛文さんも、災害対策室のスーパーバイザーとして学内の防災対策を主導して下さっています。

それと、新年度予算で、減災連携研究センターと災害対策室が入居する新しい建物が措置される見込みです。現在、基本設計の真っ最中ですが、来年夏頃には、減災活動の拠点となる新しい建物ができる予定です。揺れにくい免震で、非常時にも電源が確保できるようにすることで、災害発生時の対策拠点となるようにすると共に、平時は、啓発・育成の拠点になるような建物を考えています。防災リーダーの方々が気軽に利用できるスペースも作る予定ですから、完成を期待して下さい。

7 お知らせ・掲示板

平成24年度（第10回）あいち防災リーダー会定時総会のご案内

第10回の総会を下記のとおり開催致します。代議員制ですが、それ以外の会員もオブ参加できますので多数のご出席お待ち致します。（準備の都合上事務局河村までお申込み下さい。0586-82-7228 090-8551-4729 Email:fnthkawa@owari.ne.jp）

記

期日：4月22日（日）

場所：名古屋大学環境総合館 1F レクチャーホール

来賓：愛知県防災局長、名古屋大学福和教授（APLA 参与）、太田貴代子顧問

13:30～総会（1時間予定）

14:30～ブロック活動報告（東尾張B、西尾張B、名古屋B）

15:30～防災講演会 名古屋大学 飛田 潤教授

17:00 閉会

懇親会 夕方より 会費 4,500 円～5,000 円

会場は名大内のレストラン若しくは嘉文（検討中）



あいち防災リーダー会の各ブロックの人数と代議員

（西尾張、海部、知多ブロックの代議員数は会員数が１００名超であるが、会費を１００人分のみ納めているので、１０名となっている）

	名古屋	東尾張	西尾張	海部	知多	西三河	東三河	合計
会員数	44	90	134	103	179	59	6	615
代議員割当て数	5	9	10	10	10	6	1	51
本部役員数	2	1	4	3	1	1	1	13

名古屋大学防災アカデミー

日時：４月１３日（金）１８：００～１９：３０

場所：名古屋大学環境総合館 １階レクチャーホール

第 78 回：『東日本大震災と懸念される西日本巨大地震』

講師：阿部勝征（財団法人地震予知総合研究振興会理事・地震調査研究センター所長・
東京大学名誉教授）

あいち防災リーダー会講習会

日時：５月２６日（土）１０：００～１２：００

場所 名古屋市港防災センター ３階講習室

内容 ファシリテーター研修

編集後記

皆様のご協力感謝いたします。東日本震災が１年経過致しました。被災者の方のご冥福と復興をお祈り致します。

広報 杉浦